

## 平成 29 年度 第 2 回静岡県保健医療計画策定作業部会 委員からの主な意見

日時：平成 29 年 8 月 1 日（水） 16:00～18:00

### 二次医療圏の設定

- ・ 賀茂、熱海伊東圏域では療養病床で県外からの流入が多いが、そのことが本県にとっていいことなのか考える必要がある。
- ・ 二次医療圏の見直しにより実際の医療提供体制に変化がなければ、二次医療圏の変更にはこだわらなくていいのではないかと考える。

### 基準病床数の試算

- ・ 既存病床数と実際の稼働率は異なる。未稼働病床の活用についての圏域ごとの検討と、病院の今後の方向性を検討するためのナビゲーター役が必要である。
- ・ 「在宅医療等対応可能数」の内容について、誤解されないよう正確に伝えていく必要がある。

### 第 8 次静岡県保健医療計画 骨子案

- ・ 熱海伊東圏域では、既に高齢化率 40%を越えており、将来ではなく現在の課題として認識している。病院が診療所をバックアップする地域連携を考えたい。
- ・ 富士圏域では、二次救急の病院負担を軽減するため救急体制の見直しを検討していく。がんセンターから戻ってくる患者を圏域として受け入れる体制も整備する必要がある。
- ・ 静岡圏域は公立・公的病院が多いことから、高度急性期の機能分化が難しい。医師の働き方改革の動向にも注視していく必要がある。
- ・ 志太榛原圏域では医療従事者が少なく、公立 4 病院が相互に補完していく必要がある。高齢者医療だけでなく少子化対策として周産期・小児医療にも目を向けるべき。
- ・ 中東遠圏域では、急性期を担う病院と回復期を担う病院との機能分化が進みつつある。自己完結率は高められる状況にあるので住民への周知が必要と考える。
- ・ 各圏域で地域医療構想の議論を進める必要があり、そのためには病床機能報告データの活用が有効である。
- ・ ロコモやフレイルなど、今後高齢化に伴い増加する疾患等対策について記載する必要がある。
- ・ 老障介護（高齢の親が障害のある子どもを介護）の家庭が増加しており、医療と福祉の両方が求められることから、地域包括ケアシステムの構築が必要である。
- ・ 糖尿病予防等におけるオーラルフレイル対策で医科・歯科連携を進めていきたい。